

第5回南砺市立保育園審議会会議録

期 日 平成19年10月26日(金) 午後7時～8時30分
会 場 南砺市福野庁舎2階201会議室
出席者 宮田 徹 会長 岩田 繁子 副会長
小林 敏夫 委員 中田 勝治 委員
浅田 裕二 委員 水木 猛 委員
嶋 信一 委員 金田 悦子 委員
川上 優香 委員 江川真理子 委員
梧桐 朋恵 委員 窪 有美子 委員
古瀬美奈子 委員 柄崎 篤香 委員
高輪 映子 委員 横川 正希 委員
寺井 孝夫 委員 中藪 淳一 委員
定村 弘 委員
欠席者 南 尚三 委員
市当局 清都 邦夫副市長 山本 勝徳収入役
上田 民生部長 森田 民生部次長(児童育成課長)
事務局 岩見 児童育成課主幹・保育園係長
小橋 同係副主幹 斉藤 同係主査

会議内容

(開会)

森田次長 委員の皆様方にはお忙しいところご出席いただきありがとうございます。第5回の保育園審議会を開会いたします。

宮田会長 ご苦勞様です。本日は5回の審議会となります。事前にお送りしました「南砺市立保育園審議会(中間報告)(案)」についてご意見を伺いたいと思います。

森田次長 資料の南砺市立保育園審議会(中間報告)(案)について説明。

宮田会長 お手元の「中間報告案」の内容は、これまでの協議内容、保育園の整備方針、保育園の現状を上げており、保育園の現状としては、施設の状況、今後の出生数、入所状況、保育サービスの実施状況について説明しております。

「南砺市の保育園の現状」中、「2 出生者数の減少」は「2 出生数の減少」の言い方が良いと思われま。また、「4 保育サービスの実施状況」中、「⑤土曜日の1日保育ついて」は「土曜全日保育について」の表し方が良いと思われま。ここまについてご意見はありませんか。

岩田副会長 「保育園の現状」の中で表現の仕方が「保育園」或いは「園」とばらばらになっており、「保育園」に統一した方がよい。

- 委員 「4 保育サービスの実施状況 ②乳児保育」の中で「乳児保育」、「乳幼児保育」と表現しているが、これはどう違うのか。
- 宮田会長 福光地域には、0歳から2歳迄の子を保育する私立保育園があるので、この表現になっていると思われる。「乳幼児」ではなく「低年齢児」の方が良い。「乳児保育」は0歳児のみを意味する。1歳児から就学前は「幼児」です。「南砺市の保育園の現状」の部分については大筋このような形です。次に「市立保育園の目指すべき方向」のところですが、子どもにとって良い保育が基本ということです。「目指すべき保育」の「(2)基本理念に立脚した目指すべき保育及び保育園のあり方」の部分で「1子どもの育ちを支援する。」の更に細かい部分の3番目「園児に目が行き届く、きめ細かな保育」の部分で「園児一人一人に目が行き届く…」とした方が良い。又、「2 保護者の子育てを支援する。」の部分に「入園児の保護者の子育てを支援する」と追加する。「IV目指すべき保育サービスのあり方 (7)土曜保育」の中で「多様化に伴い、一日保育を」を「多様化に伴い、全日保育を」と表現する。「◎施設の改善」中、「低年齢化に対応する保育」を「低年齢児に対応する保育」と表現する。
- IV目指すべき保育サービスのあり方」の部分ではご意見はありませんか。
- 委員 (1)延長保育と(2)乳児保育は基本サービスになりますね。
- 森田次長 そのようになります。
- 宮田会長 3番目の「一時保育」は基本サービスとして受け止め実施園を増やすということです。延長保育も乳児保育も10年くらい前までは国に認められて実施していると補助金が交付された。が、ある時期からは保育園の自主事業として必要があれば各園で取り組み、実施していると補助金が交付される形に変わってきている。
- 委員 子育て支援センターが地域に1箇所とはどのようなことか。
- 森田次長 子育て支援センター事業は保育園で実施している地域と児童館で実施している地域がある。今後の計画の中でどのような方法が良いかも検討していただければと思います。
- 宮田会長 子育て支援事業は、保育園、児童館、NPO等で運営する方法があります。目標として地域に1箇所設置するということです。「V目指すべき保育を実現するための基本条件」の部分ではご意見はありませんか。
- 委員 目指すべき基本条件の中で「望ましいクラス人数が20名から25名程度とすれば…」このクラス人数の根拠はどこからきているのか。小学校で少人数クラスの学力が伸びたことや4頁の目指すべき保育の中での「園児一人一人に目が届くきめ細かな保育」を目指すとするればこの人数より少ないほうが良いのではないか。

- 宮田会長 数字の根拠が求められているが、明示できないので「ある程度の集団規模が必要」という表現の方が良いのでしょうか。国では、望ましいクラス規模は幼稚園で1クラス人数は35名ですが、保育園の3歳児は20名となっております。
- 委員 今日は中間報告のまとめとして資料もいただいております、これをどう肉付けし、詰めはどこまでとするのが焦点である。集まる度に各論に戻っている。前向きにいろんな形を整えていかなければならない。「私案はどこまで決定すればよいのか」を組み立てていかなければならない。
- 森田次長 資料の「年齢別児童数、保育園児数、入園率調」「南砺市管内図」について説明。
- 宮田会長 県内では、3・4・5歳児は幼稚園か保育園のどちらかに入園しているということですが。
- 委員 「目指すべき保育を実現するための基本条件」の中で市内の保育サービスが不揃いということも踏まえ、「特別保育を実施できる職員数の確保」の部分に延長保育、乳児保育は基本条件に入らないのか。それとも基本条件以外として付け加えるのか。
- 宮田会長 「特別保育を実施できる職員数の確保」の部分で、基本保育と位置づけた延長保育、乳児保育を実施していくとすれば、例えばその保育についての保育士を2名配置し、基準保育指数16名以上の保育園規模を想定すると全体の園児数は150～200名くらいになる。今までの審議でもその程度の規模だったと思う。地域区分を示した地図を作成し、「地域毎に〇箇所が望ましい」という言い方の提案でどうか。
- 私案ですが、福野地域2～3箇所程度、福光地域3～4箇所程度、井波地域1～2箇所程度ということでどうでしょうか。
- 現在の園児数からの箇所数です。将来的には減ってきますが、乳児は増えてきますので地域によっては横ばいです。
- 委員 福光地域は3～4箇所ですか？2～3箇所ではないでしょうか。
- 宮田会長 これはたたき台のつもりです。福光地域の入園児数は514人です。小学校区は4校区あります。幅を持たせた数字でどうでしょうか。
- 委員 井波、福野、福光地域での箇所数であったが、井口地域はどうするのか。
- 宮田会長 今の段階でどの程度配慮すべきでしょうか。
- 上田部長 「保育園から小学校区へ行くのが望ましい」という校区毎の考え方をしており、将来的に学校の統廃合にもよると思っております。
- 岩田副会長 小学校区で考えるとこの形で考えるということでしょうか。それとも、校区を越えた考え方もあるのでしょうか。

委員 小学校では一緒になるが、中学校で分かれる地域もあり、現状を見ながら考えるべきだろう。

委員 我々がそこまで提起していったよいか。

委員 スタイルはこれまでの話でご理解しておられると思うが、お互いの地域で考えていくべきだ。

宮田会長 審議会で箇所数を示すのではなく、ある程度の目安を上げていく。

委員 現場をお持ちの先生はどのように考えておられるのか。

宮田会長 会長私案ということで、福光地域は3～4箇所、福野地域は2～3箇所、井波地域は1～2箇所ということでどうでしょうか。委員の方のご意見を伺いたい。審議会としての検討結果ではありません。

委員 「民営化に関する事項」はどのような結果を出していくのか。

宮田会長 「民営化」については次の段階であろうということではなかったでしょうか。

清都副市長 保育園の民営化、井口地域の件は南砺市全体の形で考えることとします。

委員 今までの第1回、第2回の審議会の記録がホームページに無い。どうしてなのか。

森田次長 容量の問題かも。どういう状態になっているか確認します。

宮田会長 保育園の民営化については、この後の話になってくると思われます。
本日の審議は終了いたします。次回は12月中旬の予定で調整し、答申素案のまとめをしたいと思えます。ありがとうございました。

清都副市長 お疲れのところありがとうございました。皆さんに紹介しますが、去る10月12日の富山県及び南砺市保育士会主催の南砺市での公開保育においても宮田先生に「人とかかわる力を育む保育」のテーマで講演していただき、大変お世話になりました。お礼申し上げます。
先ほど、私案ということですが、保育所数を合計すると6～9箇所になります。一度には改築できませんが、なるべく合併特例債を使って実施したいと思っております。そうすると後7年となっており、順調にいくのかと心配もあります。答申をいただいたら地域の関係者に相談をしていかなければなりません。皆様の期待に沿うよう、保育サービスを上げるように取り組んでいきたい。次回迄に本日の内容をまとめ、審議いただきたい。将来的には子どもも減るかも知れないし、井口地域のこともあり、全てを表現できるものでもないと思えます。本日は遅くまで審議いただきありがとうございました。

(終了 8時30分)